

佐賀県腎協

「ふれあい白石」開所

患者の自立のために送迎

「さわやか」コーディネーター

山田 浩美
梶原 待子

平成12年4月2日佐賀県腎協、通院介護支援センター「ふれあい白石」の開所式が武雄温泉ホテル「春慶屋」で開催されました。

その日は、武雄温泉祭りが開催されており、また桜の花も満開という、とても賑やかで、華やかな中での開所式となりました。

佐賀県内では、三ヶ所目の通院介護支援センターとなります。

地元国会議員、武雄市長が来賓としてお祝いに駆けつけておられました。その中で佐賀県腎協の事務局長であり、自ら透析患者でボランティアもされている早田さんがお話しされました。

ある透析患者さんの送迎を開始し、初めは家から車までの移動に車椅子で、家族の介添で車に乗られ、病院では看護婦さんが、病院内に移動し

ていました。

送迎途中の会話からその患者さんと早田さんは、同じ年数透析をしていることが判ったのです。それから一週間ほどしたところから患者さんは家から車まで杖で介添えがあれば歩けるようになり、そうしている間に、杖のみで自分一人で車に乗られるようになったそうです。

患者さんがボランティアさんとのふれあいを通じて生活に張り気力がでてきて少しづつ元気を取り戻されたのだと思います。

通院介護にかかわる私たちは「さわやか」の目的でもある『患者が患者を支援している』をスローガンとし、入院している患者さんを自立へ導くため、まず第一歩である通院のお手伝いをしようということでした。

早田事務局長のお話しはと

ても感動しました。これこそ「さわやか」が目指していたものではないでしょうか。

佐賀県腎協では、もう一カ所センターを開所する予定で合計4ヶ所で佐賀県をカバーできるそうです。全国的にも、県全域で通院事業を行

へつばやきカード

これからも、思いやりの心で

「さわやか」ボランティア

橋長 宏明

勤務の都合で、夫婦だけの生活が始まって九年目を迎えます。子育ての終わった夫婦の会話は、滞りがちでした。

ところが、平成十年からお手伝いさせていただいている介添ボランティアを最近、女房も手伝うようになってからは、私の都合がつかない日のフォローをしてくれるので利用者の方々から「回数が増えて助かります」と感謝される様になりました。

また、女房の方が、女性同志とあって、送迎中の会話もはずむ様です。平素、話し相手の少ない方の聞き役になってあげるのも大切なことだと思えます。

「こんなことがあったのよ」

へつばやきカード

私…頑張ります

「さわやか」ボランティア

匿名希望

一浪して大学に入った長男が留年もせず今年三月無事卒業しました。四月から社会人「いっちょあがり」と言いた

い所、今度三年になる次男がいる。

親をやめたいと何度思ったことか(出費が大きいため)何度生ゴミで息子達を出そうと思ったことか(心配のあまり)。

私も頑張ります 何事にも!



ボランティア研修交流会は都合により、中止しました。御了解下さい。

「さわやか」事務局

北九州市

会計監査終わる

四月十三日十一時より、北九州市庁舎で、「さわやか」の平成十一年度の会計監査がありました。

北九州市からの助成金が適正に使われているか、市職員によって、帳簿等の監査がありました。

「さわやか」八幡事業所、小倉事業所とも、無事監査を通りました。

同時に、平成十二年度の事業計画も提出し、了承されました。今年度も安定した事業が出来るようになりました。